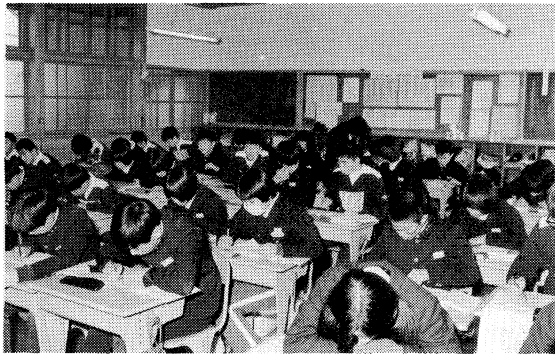


いうような、学習活動によって培われると考えれば、このような結果になったのは、当然のことであった。

(二) 実践の方針

「生徒みずからが学びとる意欲・態度の育成」を、今後の指導課題とし「生徒の自己評価を導入した学習指導」をくふうすることによって、課題にせまりたいと考えた。

- ① 指導過程の中で適時評価し、その結果が、明日の授業に生かせる評価のあり方を追究する。
 - ② 毎日の授業に負担過重にならないよう、背のびをしない実践にする。
 - ③ 過去の実践で得た有効な方法は、更に改善をして生かしていく。
 - ④ 校内研究との連携を密にし、個人の実践が生かせるようにする。
 - ⑤ 自己評価することによって「授業がわかる、問題が解けるようになる」といった喜び、満足感を体験させ、生徒みずからが、自己評価することの必要性、有効性を感じとるようにする。
 - ⑥ 評価のポイント基準を明示し、自己評価ができるだけ生徒の負担、苦痛にならないようにする。
- (三) 実践の計画
- ① 対象……教科担任クラス全員
(一の三～一の七 計二百十名)
 - ② 教材……一年・理科・第一分野
「力のはたらき」を中心に実践した。
 - ③ 検証計画
○十項目についての事前・事後調査



課題に取り組む生徒たち(二本松一中)

結果の比較

○実践内容についての生徒アンケート調査

○生徒の感想文

○教師の日常観察

○事後テストの結果と、そのは持率

(四) 実践の経過(資料2参照)

(五) 実践内容

自己評価の位置づけ

毎時の指導過程の中のフローチャートに各の記号によって、自己評価を位置づけた。評価回数は、単位時間あたり一～二回を原則とした。各の記号は、相互評価を意味する。(資料3参照)

(2) 自己評価のさせ方

生徒が自己評価可能である、また、

そうすることが、より有効であると思われるところを設定し、主に、次のような方法で意図的に自己評価させた。

- ① 教師の説明や、TP等の提示物をもとに自己評価させる。
- ② 他の生徒の意見や発表、グループ内での話し合いをもとに、自己評価させる。

(3) 自己評価のための手だて

- ① 本時のねらいと、学習内容のポイントが理解されている。
- ② 評価する内容と、その評価基準が把握されている。

資料2 実践の経過

| 年度 | 学期 | 実践の概要 |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 51 | 1 | ○過去の実践の反省(実践の効果の確認、今後の問題の解明、指導法の反省) ○今後の指導のあり方を検討(生徒の実態調査、過去の実践の生かしかた、校内研究との連携) ○実践課題の設定 |
| | 2 | ○課題追究のための構想と文献研究 ○実践のための準備(単元設定と単元の教材研究、指導計画の立案) ○実践(単元「地殻の変動と地球の歴史」) ○実践内容の検討(手だての検討と改善、指導案のくふう、グループ活動への手だて) |
| | 3 | ○今年度の反省と次年度の計画と準備 ○文献研究 |
| 52 | 1 | ○校内研究への積極的参加(個人研究の生かし方について) ○今年度の実践計画と文献研究 |
| | 2 | ○実践のための準備(単元の設定と教材の研究、指導計画の立案、指導案の決定(形式)) ○実践(学習ルールの確立、単元の学習の方法についてオリエンテーション、グループ編成のしなおいし、学習計画表と学習資料の作成、座席表の作成、自己評価表の形式決定 テストの処理の方法について検討と処理のための名簿、グラフ、表の作成) ○検証のための研究授業の実施(校内研究をかねる) ○は持率のためのテスト実施及び、アンケート調査 |
| | 3 | ○実践結果のまとめと、考察 ○次年度の計画 |

自己評価のための手だてとして以上二点について実践した。

- (4) 座席表による、毎時の観察記録
クラスごとに座席表を作成し、毎時の観察したことを記録した。チェック・リスト等の方法を実践してみたが、教師の負担が大きく、実用的でなかった。

(5) 自己評価表の処理

- ① 次時の指名への活用
自己評価表を回収し、名簿に転記し、Cの評価をした生徒を把握し、次時で意図的・計画的に指名ができる。
- ② 本時の反省と次時の指導への活用
名簿に転記した後、項目ごとに平均を求め、グラフ化する。生徒側から見た、教師の指導に対する評価として、活用した。

(6) 診断カルテの作成

- ① 診断カルテの内容を明記した個人カルテに○、△、×の記号をかき、自分のつまづきを知る。
- ② テスト結果の記録と分析表・グラフの結果を記録し、個人及びクラスの傾向を把握し、指導の反省資料として活用した。

(1) (六) 実践の結果

十項目による生徒像の変容
資料1のように、Cが減少し、Aが増加しており、生徒の学びとる意欲や態度が向上した。